付属生 がんばる

尾畠詩織さん

日本大学明誠高等学校

中3でグラススキーの頂点に。スランプも笑顔で乗り越え昨夏の世界ジュニアで3位

おばたけ・しおり
1996年9月30日山梨県生まれ。日本大学明誠高等学校3年。多忙で、たまに「友だちと立川、八王子に遊びに行く」のが息抜き。

草の上を滑るグラススキー。2年に1度、世界選手権大会が開催される。3年前の平成23年、スイスで開かれた大会で優勝した。当時、中学3年生。欧米の強豪がひしめくなかで日本人初の快挙だった。明誠高3年の今夏、イタリアで開かれるジュニア世界選手権に向け、練習に励む。

世界の頂点に立ったシニア大会は、ジュニア選手権に備えた腕試し。

「『大会慣れするために、出てごらん』と言われて滑ったら優勝。周りも驚いたが、自分でもびっくりしました」と振り返る。

グラススキーを始めたのは小学3年生の時。地元の山梨県都留市にある「サンパーク都留グラススキー場」でコーチをしていた伯父に勧められた。同スキー場に大きな競技会を誘致する構想が浮上。実現には地元選手の育成が必要と、白羽の矢が立った。

夏はグラススキー、冬は雪上のスキーという生活が始まる。「近くのゲレンデで練習でき、チームの先輩にもよく教えてもらった」。運動センスは抜群。上達は早かった。始めて3年たった6年生の「都留市ジャパンジュニアグラススキー大会」では2種目で優勝。

グラススキーはスキーヤーがオフシーズンにも練習できるようにと、考案された。キャタピラ状のスキーをはいて滑る。通常のスキー板より短く、高さは12センチほどある。前後のバランスが取りにくいが、回転（スラローム）など基本技術はスキーと共通。欧州では人気のアウトドアスポーツだ。

「グラススキーのシーズンは5月から10月まで。最初は暑いし、うまく滑れませんでした」。なぜ続けられたか尋ねると、「ほかの人より早く始めたので、上にいけた。それがうれしかった」。

明誠高への入学は、「オフ」にスキーができることが決め手だった。「山梨県でスキー部がある高校は数校。明誠高が自宅に近く、部の活動もしっかりしていたので」。入学すると「期待以上に楽しかった」。

世界大会優勝の翌シーズンは気負いすぎて、スランプに陥った。しかし、高2の昨夏は世界ジュニアで3位と、中3での優勝がフロック（まぐれ当たり）ではなかったことを証明した。

「1年間だめだったので、周りもそれほど期待せず、自分でも吹っ切れてから練習できました」。それが復調につながったようだ。今夏はイタリアで世界ジュニア。めざすはもちろん優勝。

日本大学への進学を希望しているが、「文理学部体育学科か、三島の短期大学部食物栄養学科か」決めかねている。いろいろな可能性を模索し17歳の心は揺れる。

130_34-35□ん□る2.indd 34 14.5.8 3:01:05 PM